

免許更新までの流れ

最初の修了確認期限を確認する

- 文部科学省ホームページに、確認のためのチェックツールがあります。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/index.htm

各大学等の更新講習から自分に合ったものを選び、各自が申し込む

- 文部科学省や各大学等のホームページに、更新講習の一覧があります。

各大学等で30時間以上の更新講習を受講する

各大学等で修了認定を受け、修了証明書を発行してもらう

勤務校が所在する都道府県教育委員会(免許管理者)に更新講習修了確認の申請をする

免許管理者が修了確認を行い、修了確認証明書が発行される

- 上記の文部科学省ホームページに、詳しい流れや制度の解説、Q & Aが掲載されています。

教員免許更新制

平成21年4月1日から導入される「教員免許更新制」。さっそく期限が迫っている先生も、10年後の先生も、まだわからないことや不安なことが多いのではないのでしょうか。ここでは、制度の概要をおさらいするとともに、20年度に実施された「予備講習」の様子から、更新講習の実際をさぐってみましょう。

「教員免許更新制」とは

平成19年6月の通常国会にて、教育職員免許法が改正され、教員免許更新制が導入されることとなりました。

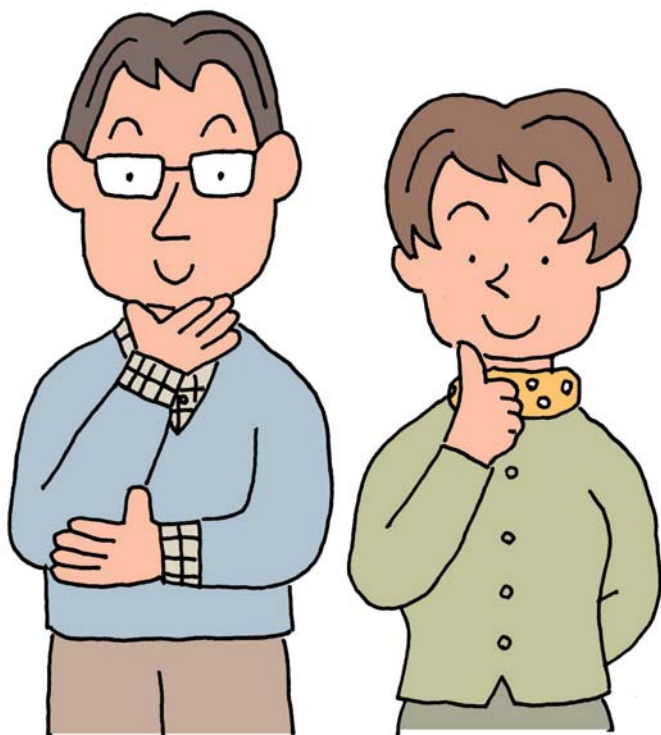
更新制は平成21年4月1日から導入され、これ以降に授与される免許状については、10年間の有効期間が設けられることとなります。この「新免許状」については、有効期間が終了する2ヶ月前までの2年間のうちに、免許状更新講習を受講し修了することで、有効期間が更新されることとなります。

この新免許状に対して、平成21年3月31日以前に授与された免許状(旧免許状)

に有効期間が付されることはありませんが、これを所持する現職教員も10年ごとに講習を受講し修了することが義務付けられます。

具体的には、教諭免許および養護教諭免許を持つすべての教員は、生年月日で「修了確認期限」が設定されており、その修了確認期限内に、各大学等で実施される更新講習を受講・修了する必要があります。

おおまかな流れを左上に示しましたが、修了確認期限の把握や講習の選定、諸手続きまで、原則として各個人に任されていますので、準備には十分な注意が必要です。



知識や技能の「リニューアル」を

文◎山極 隆

昨年改訂された学習指導要領により、30年間続いた「ゆとり教育」から、「確かな学力」の充実向上への転換が図られることになりました。今後、基礎教科における習得型学力の徹底、その上に立った活用・応用型学力の充実、更には探究型学力といった質の高い学習内容や指導方法が重視されるようになります。

学力の充実向上に影響を与える三大要因は、「教員の授業力」の充実、「子ども」の学習努力、そして「家庭の教育力」の向上です。ところが、今日の学校教育にあつて教員は多忙を極め、子どもと向き合う時間も十分にとれない状況にありま



山極 隆 先生

やまぎわ・たかし/玉川大学学術研究所教授・中央教育審議会「教員養成部会教員免許更新制等ワーキンググループ」主査



す。外部からの調査等の増加もあります。が、何よりも子どもの変化と家庭の教育力の低下にかかわる問題への対処に追われているのが現状です。しかし、そのような中にあつても、常に教員に求められることは、広く国民や社会から尊敬と信頼を得られる存在になることなのです。

教育を取り巻く環境は刻々と変化しており、教員として身につけるべき資質能力も常に変化しています。10年に一度の免許状更新講習を大いに活用して、教員としての資質能力を更新（リニューアル）し、自信と誇りをもって教壇に立っていただくことを強く願います。

山極先生に聞く

ここが知りたい!

免許状更新講習

Q どのような講習をどれくらい受けるのですか? 試験はあるのですか?

▼更新講習は全30時間以上で、1日6時間の講義を5日間受講するのが一般的です。

▼内容は、全員が受講する12時間以上の「教育の最新事情に関する事項」「必修領域」と、専門教科領域から選択する18時間以上の「教科指導、生徒指導その他教育内容の充実に関する事項」「選択領域」とに分かれています。

▼修了認定のために、ペーパーテストや実技考査がありますが、その日の講義内容をしっかり理解していれば、大抵の方は合格するでしょう。

Q どのくらい受講できますか?

▼更新講習は、全国の教職課程をもつ大学や、文部科学大臣が認定した教育機関等が開設します。21年度の開設状況は、文部科学省のホームページで確認ができます。随時更新していますので、ご自分に合った場

所・内容を選ぶことが大切です。

▼講習は主に夏冬の長期休業期間に開かれますが、勤務環境に合わせて通信やサテライト型、インターネットでの受講も可能です。

Q 現状でも様々な教員研修を受けています。更新講習はどこが違うのでしょうか?

▼更新講習は、あくまで最小限必要な最新の知識・技能の保持を目的としています。そこで得た基盤的な資質能力を前提として（必要条件）、個々の教員の適性や経験等に応じた多彩な現職研修が行われることにより、専門性の一層の向上を図るもの（十分条件）と考えます。

◎免許更新制 どう捉える?

講習費用の自己負担や休日返上はやっぱり疑問……

教員免許状が個人の資格である以上、講習費も自己負担というのが国の基本的な考え方です。それならば、民間でいうキャリアアップと捉え、自己成長のために、そして未来を担う目の前の子どもたちのために、講習内容をしっかり選んで、実りある時間にしてほしいですね。

予備講習に関する意識調査

予備講習受講者にアンケート調査を実施

株式会社ジアース教育新社「教職キャリアデザイン」Vol.5
(2008年10月30日発行)より転載

調査方法

平成20年8～9月に予備講習を開設したいくつかの大学等で本誌(「教職キャリアデザイン」)が独自に策定した調査項目を受講者に配布、約500人の受講者から回答を得た。

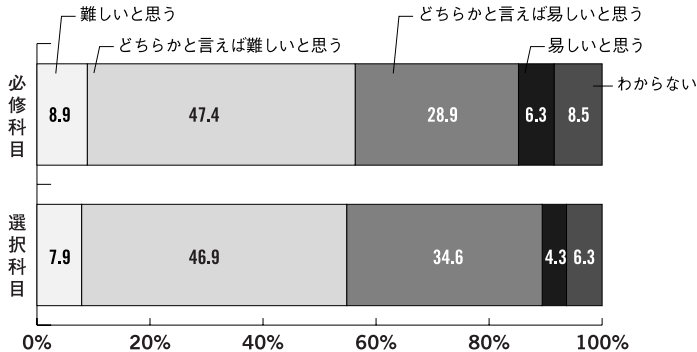
●年代

30代 ……29.5%
40代 ……37.6%
50代 ……31.7%
その他 ……0.7%
無回答 ……0.5%

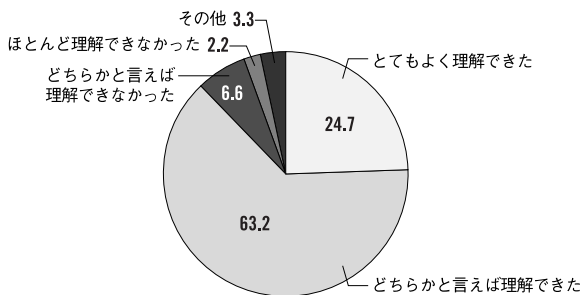
●学校種

幼稚園 ……11.5% 養護教諭 ……3.2%
小学校 ……30.1% その他 ……1.0%
中学校 ……16.7% 無回答 ……0.5%
高等学校 ……28.0%
中等教育学校 ……0.2%
特別支援学校 ……8.8%

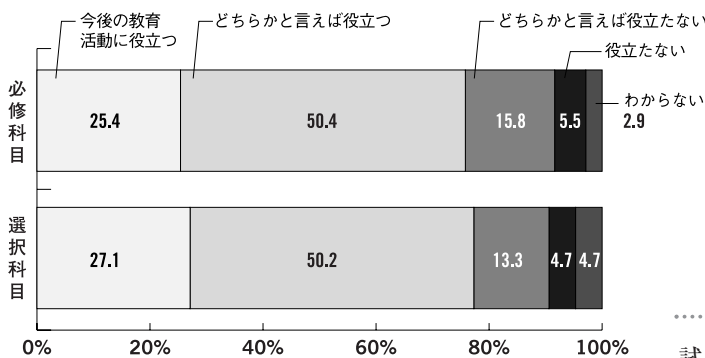
① グラフ① 講習の難易度について



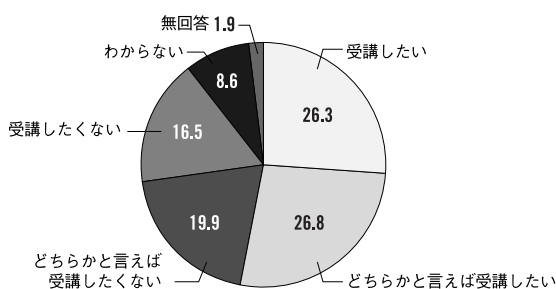
② グラフ② 教育の最新事情についてどれくらい理解できたか (数値は%)



③ グラフ③ 今後の教育活動に役立つかどうか



④ グラフ④ もう一度講習を受講したいか (数値は%)



□講習の難易度・理解度について

① グラフ①・②

講習の難易度についてたずねたところ、「難しい」、「どちらかと言えば難しい」のどちらかを回答した受講者は、必修科目については全体の56%、選択科目については55%だった。必修科目を「難しい」と答えた受講者からは、「短時間に多くの内容や情報を教えられ、また多くのプリント資料を与えられ、その時間内にすぐ試験というのは大変」などの意見があった。一方で、教育の最新事情について、「とてもよく理解できた」、「どちらかと言えば理解できた」と回答した受講者は合わせて88%に達した。

□今後の教育活動に役立つかどうか

③ グラフ③

講習で学んだことが「今後の教育活動に役立つ」、「どちらかと言えば役立つ」のどちらかを回答した受講者は、必修科目では全体の76%、選択科目では77%だった。必修科目について、「役立つ」と回答した受講者からは、「新しい知識を得るだけでなく、今自分が考えていること、行っていることが、間違っていないと確認でき自信につながった」などの感想があった。「役に立たない」と回答した受講者には、「総論的な部分に偏らずに具体的、個別的な事例研究を学びたい」というような、「授業ですぐに役立つ」内容を望む声が多かった。

□もう一度講習を受講したいか

④ グラフ④

来年度以降講習を受講する機会があったらもう一度受講したいかどうかについてたずねたところ、全体の53%が「受講したい」または「どちらかと言えば受講したい」と回答した。半数以上の教員が、今回受講した予備講習が有意義だったと感じていると考えられる。もう一度受講したいという回答の中には、「受けてみると『なるほど』の連続で、明日からの実践でも早速試してみようと思うことばかりで、とても参考になった」などの声があった。一方、「受講したくない」と回答した受講者からは、「何ができて合格なのか、明確な基準がほしい」など、講義の進め方や試験のやり方に対する不満が多かった。



予備講習

体験者に聞きました



**他地域の先生と交流する
貴重な機会**

(千葉県・30代・女性)

学校に届いた大学からの案内を見て応募し、「最新の教科教育」などをテーマにした講習を5日間受講しました。

内容は、学習指導要領の新旧対比など概論的なものが多く、明日からすぐに活用できるというわけではありませんでしたが、将来的にじわじわと効いてくる内容だと思っています。

各講習の最後に試験があり、800〜1000字程度の記述問題を1時間で書くというものでした。講義の内容をふまえて自分の考えを書くことが中心で、ノートを見てもよい日もありました。

私が受けた講習は5日とも講義が中心だったので、正直ちょっと疲れてしまいました。日によっては導入のゲームやグループワークの時間もありました。そのときに離れた市から参加している先生方と話ができたのはおもしろかったですし、貴重な機会でした。また、違う大学で受講した先生は、体育や音楽・図工など実技の講習を受けたそうです。自分に合った内容をしつかり選べるといいと思います。



**情報収集をして
内容の吟味を**

(千葉県・40代・女性)

現在、理科専科なので、選択領域は「ホタルの光をつくってみよう」という理科の講座を受講しました。午前が講義、午後は実験で、科学的な探究心を刺激される興味深い内容でした。

必修領域は別のところで受講し、こちらは講義が中心でしたが、現場においては気づかないことも多角的な視点から知ることができ、大変勉強になりました。話の内容や話し方なども授業に生かせそうです。

講習の最後には必ず修了試験があります。一般的な試験や論述形式、ノート持ち込み可など、講座によって形式は異なります。

理科の講習は小学校から高校までの教員が受講していたため専門性が高く、小学校教員には難しい面もありました。対象者がもう少し明確に絞られていると良かったですね。講習を選ぶときに内容をよく確認した上で受講するのいいと思います。また、自宅から通いやすい場所を探すなど、しつかり情報収集をすることをおすすめします。

指導に自信のない教科の講習を選んだり、勤務校で課題になっていることをこの機会に学んだり、役立つ講習を選んで活用していけるといいですね。



他多数

★最新情報をチェック！ 更新講習の開設状況

平成21年に開設される免許状更新講習について、1月に第1回の認定が行われました。その後も毎月順次認定され、文部科学省のホームページに公開される予定です。

なお、平成23年3月31日が修了確認期限となっている受講義務のある方が全国で約8万7千人いるのに対し、全国で開設が見込まれる更新講習の受入予定人数は約10万人となっています(※)。20年度の「予備講習」はあくまで試行事業だったため、対象者の2割弱程度の応募人数が想定されていましたが、本格実施となる21年度からは充分な数の講習が設置されると考えられます。

※平成20年12月文部科学省調査による。受入予定人数は対面方式の講習で人数が確定しているもののみを計上。

〔講習例〕 ※第1回認定講習（選択領域）より

- ◎ 植物育成・栽培実践の指導法 (北海道教育大学)
- ◎ 小学校図形教材を見直す (福島大学)
- ◎ 発達障害の子どもの理解と支援 (東京学芸大学)
- ◎ 小学校外国語活動の指導法―理論と実践― (福井大学)
- ◎ 授業をブラッシュアップするパソコン活用 (熊本県立大学)
- ◎ 社会科教育のための国際法 (琉球大学)